

11:10 これはセムの歴史である。セムは百歳のとき、アルパクシャデを生んだ。それは大洪水の二年後のことであった。

11:11 セムはアルパクシャデを生んでから五百年生き、息子たち、娘たちを生んだ。

11:12 アルパクシャデは三十五年生きて、シェラフを生んだ。

11:13 アルパクシャデはシェラフを生んでから四百三年生き、息子たち、娘たちを生んだ。

11:14 シェラフは三十年生きて、エベルを生んだ。

11:15 シェラフはエベルを生んでから四百三年生き、息子たち、娘たちを生んだ。

11:16 エベルは三十四年生きて、ペレグを生んだ。

11:17 エベルはペレグを生んでから四百三十年生き、息子たち、娘たちを生んだ。

11:18 ペレグは三十年生きて、レウを生んだ。

11:19 ペレグはレウを生んでから二百九年生き、息子たち、娘たちを生んだ。

11:20 レウは三十二年生きて、セルグを生んだ。

11:21 レウはセルグを生んでから二百七年生き、息子たち、娘たちを生んだ。

11:22 セルグは三十年生きて、ナホルを生んだ。

11:23 セルグはナホルを生んでから二百年生き、息子たち、娘たちを生んだ。

11:24 ナホルは二十九年生きて、テラを生んだ。

11:25 ナホルはテラを生んでから百十九年生き、息子たち、娘たちを生んだ。

11:26 テラは七十年生きて、アブラムとナホ



ルとハランを生んだ。

11:27 これはテラの歴史である。テラはアブラム、ナホル、ハランを生み、ハランはロトを生んだ。

11:28 ハランは父テラに先立って、親族の地であるカルデア人のウルで死んだ。

11:29 アブラムとナホルは妻を迎えた。アブラムの妻の名はサライであった。ナホルの妻の名はミルカといって、ハランの娘であった。ハランはミルカの父、またイスカの父であった。

11:30 サライは不妊の女で、彼女には子がいなかった。

11:31 テラは、その息子アブラムと、ハランの子である孫のロトと、息子アブラムの妻である嫁のサライを伴い、カナンの地に行くために、一緒にカルデア人のウルを出発した。しかし、ハランまで来ると、彼らはそこに住んだ。

11:32 テラの生涯は二百五年であった。テラはハランで死んだ。

イスラエルの始祖であり、また信仰の父であるアブラハムがどのような家系から生まれたか、そのルーツについて記し、その存在の確かさが示されています。ノアの失態を覆った良い息子の子孫からアブラハムは出ているのです。

しかし反対の現実もあります。信仰の人ノアも酔って失態をさらし、感情で子どもを呪うというようなことをしていました。またノアの子孫からバベルでの神への反逆が生まれました。信仰は子孫に必ずしも完全に伝わるとは限りません。

ただしこうも考えられるでしょう。信仰を孫子に伝えるのは難しい。だからこそしっかりとそれをする必要があるのです。基本的にこの世は神に背いたことから始まっています。その中でノアか

らアブラハムに至る過程は勝利の実例なのです。当然、家族の中で信仰が語られ、見せられ、そして育てられたからこそ、信仰の遺産がなくならずに後世に伝わったのです。難しいからこそしつかりやりましょう。しつかりやるためにには、希望を持ち続けましょう。

(信仰の家族から不信の子孫を生まないために)

アブラハムの父であるテラは、愛する子どもをなくし、カナンへの途上であるカラム（またはハラン）に住み着いてしまいました。何か人生の目的へのあきらめが、そこにはあるようです。カラムも月を信仰していた地ですから、信仰的にも妥協的でその結果本来の人生を送れずにそこで死んだようです。

しかし神様はそこから信仰の父アブラハムを生まれさせたのです。神の計画は偉大です。生い立ちや家族がどうであっても、偉大な神の力を信じましょう。偶像に対して妥協せずに、祝福された孫子とともに喜びが分かち合えるようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

